

# 地域子育てセンター「ゆりかもめ」の歴史 5

～ 母子・家族支援が街興しに展開 ～



## 5-1 「ゆりかもめ」自体が、市役所への依存を半ばストップ！

この直前に「子ども祭り」の運命を決定づけることになる【偶然その 18】が起きていた。私は、てっきり、「子ども祭り」も「青空クラブ」合同の大運動会の延長で、市役所が主催で「ゆりかもめ」が主管という体制が適当かと考えていた。この運営体制のお願いに伺った時、たまたま市役所社会福祉課で対応をされたのが、永野昭氏（現木更津市企画部次長）。彼はこう言って私を驚かせた。「宮崎さん、もうその様なやり方をする時代は終わりましたよ。全て、民間でやって下さいよ。市役所は出来る応援はしますが、主体は、皆さんでよいのです。もう、市役所が何でもやる時代じゃないですよ。」私はちょっと驚いたが、何か得心するものがあって、あっさりと、「ああそうですか。」と言って引き下がった。自分が実行委員長をやるしかない。副は、更生保護女性会にお願いしよう。大正会理事の鶴岡大治氏はイベントの専門家らしいから助言者だ。社会館父の会元会長大野睦氏には、社会館卒業生のとりまとめをお願いしよう。後は三橋主任を先頭に「ゆりかもめ」の指導者達が事務局。そして公式発表。

「木更津こどもまつり」は、

- ① 何よりも親たちが自己発揮する場でなければならない。
- ② 何よりも親たちが、地域の人々とお近づきになる仕組みを持っていなければならない。
- ③ 何よりも親たちが、「ゆりかもめ」の町、木更津、そしてそこに今住んでいる自己を、共に受け容れるキッカケにならなければならない。
- ④ 今まで、やっではつぶれ、やっではつぶれてきた、木更津のイベントの二の舞を踏まない。
- ⑤ 他のイベントと同じ事はやらない。他が真似できないことをやる。
- ⑥ 地元が、協賛できて受け容れられる企画にする。
- ⑦ 皆様のご支援ご協力をお願いするが、こちらが全責任を持つ。
- ⑧ しかし参加者達も無力な受益者・消費者にはなるべきではない。

私はこのような大まかなスケッチを頭に描きながら、最初の実行委員会総会に臨んだ。2004（平成16）年6月。

## 5-2 第1回木更津子どもまつり：スタッフだけで500人！

2004（平成16）年11月。第1回目の「木更津子ども祭り」は、今までの運動会の実績からして、参加者はせいぜい500名と私たちは予測した。所が、呼びかけてみたら、スタッフだけで500名。スタッフ章が500枚出たのだから間違いない。一般参加者は2000名かそれ以上か。というわけで予想を超える大成功となってしまった。私としては一定の願いはしたつもりであったが、初年度事業



で実績もなく前例もない事例であったのに、市役所社会福祉課から、いきなり100万円の助成金が出たのには、驚いた。【偶然その19】市役所側にも、それまでの7年間の「ゆりかもめ」運動会（必ず、市役所から児童家庭課長のご臨席ご挨拶を仰いできた。）の実績からすれば、最低500名ぐらいのイベントにはなるだろうという計算はあったのかも知れない。が、結果として、1回目で2500名を越す参加実績、しかも内スタッフが5

00名という数は、我々を安堵させ勇気づけるに十分な手応えであったし、市役所側も驚いていた。主目的は「子育て支援」であったが、結果は、「地域振興」につながっていた。【偶然その19】

## 5-3 「木更津子どもまつり」の独特の風情

「子ども祭り」は愛染院・光明寺・撰択寺そして八幡様といった、木更津駅西口に集中している寺社境内を舞台にしている点で、他地区がなかなか真似できない風情を醸し出していると言える。これは何よりも光明寺先代御住職石野文了上人のご賢察ご決断によるものと断じて良い。第1回目の開催に当たって、石野師に私がその趣旨をご説明し、「光明寺の境内もお借りしてよいでしょうか。」と伺った時、師は光明寺玄関先で誠に明快に、しかも即座に、何の逡巡もなく「いいんじゃないの。」とお答えになった。この一言が「木更津子どもまつり」の成功を決めたのだ。【偶然その20】以来、歴代御住職のご理解を頂き、「子ども祭り開会式」を光明寺本堂前で行い、画龍に点睛を得ている。また八幡様は、七五三の時期に重なって忙しいにも拘わらず、みまち通りのてこ入れが課題とされた「第3回木更津子ども祭り」より、神社境内を「子供ふれあい動物園」の空間として提供頂いて、みまち通りの賑わい再生の一助とさせて頂いている。これは八剣宮司のご賢察ご高配の賜であり、実に感謝に堪えない。



## 5-4 「木更津子どもまつり」を支える人脈

2009（平成21）年11月、第6回目の木更津子どもまつりが開催されるまで、君津市の日赤奉仕団（団長、小糸の鎌田和子様）のご支援を受けた（第3回まで）り、木一小学校長鈴木順一先生の提唱によって、生徒達100名程の合唱隊が参加するようになったり、愛染院世話人会が20名程の警備隊を編成して下さったり、その人脈は多岐に涉っている。木更津市主任児童委員会、更生保護女性会木更津支部、愛染院仏教婦人会、木更津市交通安全協会の皆様には、はっきりと



したイメージも定かでなかった最初から、明確なご支持とご協力を頂いた。実に様々な人・グループ団体のご理解共同参画を頂いたこと、中でも木更津社会館保育園父母会 OB の方々の全面協力は、不可欠にして必要十分な支援活動となって継続されている。

## 5-5 母達の積極的自立的活動が当たり前の「ゆりかもめ」

「木更津こども祭り」第1回が成功した年の翌年、2005（平成17）年、4月「ゆりかもめ」東清分館の開設準備は、初めから「ゆりかもめ」の指導員達と母達の共同合作であった。木更津市担当課からは、「木更津大正会に旧東清保育園の全体を無料で貸すが、改修費用等整備費の予算は全くないので、宜しくやって欲しい。」と言い渡されていた。園庭プールの解体、大駐車場や案内看板の設置、10メートルの広いデッキの設置、遊具外壁の塗装などを、500万円の愛染院からの寄付によって仕上げた後、所長宮崎は、室内の整備一切を母達と指導員の共同作業に委ねたのだ。東清分館の主任には、白石恵美子保育士を任命した。県立保育専門学院で私の哲学の授業を受け、私の考え方は充分に分かっている元学院生であった。

「何でも市役所に求めて解決して貰う」時代は終わっていた。財源の捻出からして、基本的に今ある財源を遣り繰りすること。新規事業のための不足分は、節約するか、自分たちで作るか、自分たちで資金を捻出する。市は精神的な支援をして下さればよい。市の財源が、結局回り回って、私たちの懐から出ているのだとするなら、市を通さずに、直接に知恵・才能・奉仕活動・資金作りをしてしまおう。私は、旧東清保育園を任されるに当たって、このように割り切っていた。そしてこのことが、母達の、市民としての自発的な行動爆発を引き出すことになった。彼等の有能さ、賢明さ、公正さ、思いやり、ひたむきさ、おおらかさそして芸術的才能。その実に豊かな人間性を、人は目の当たりすることになった。

「東清分館」玄関に入って最初に目に入ってくる、廊下中央部の3枚の垂れ幕式の芸術作品は1人の母親の作品である。一晩で作ってくれた。社会館元主任保母、田中茂子先生の遺族から頂いた、篤志寄付



30万円で購入された絵本は、母達を選び、その図書室も母達が整備してくれた。子供達のための、着替え遊び用の洋服のコレクション等のおもちゃ類も、完全に母達の自主製作手作り作品。

彼等の自主製作の絶品は、市長を招いての落成記念式典そのもの。間口4間、高さ1間半の戸棚迷路の除幕式の巨大な幕の製作準備、式典中の出し物、記念品準備から式進行に到るまで、私の二・三の注文を受けながら、指導員の必要な援助も求めながら、彼等は見事に成し遂げてしまった。水越市長が「旧東清保育園園舎が地元の要望に合うように復活した。」と満足されたであろうことは明白であった。地元選出の前田議員の鼻が、高々であるように見えたのは、私の思い過ごしではない。これで市議会議員前田清治氏にご恩返しが出来た、と心から私は安堵した。

## 5-6 父母達の手と心の裡に日本の未来はある



「東清分館」が開所したことによって、「ゆりかもめ」は、1つの一時保育所、3つの広場、そして3ヶ所の青空保育を運営することになった。フルタイムの職員が1名、パートタイムの職員が4名そして母親達の先輩の中から選ばれた、ママさんスタッフが8名。

年間予算は、合計1200万円。「寺町分館」「東清分館」の維持費もここから捻出する。母達は、「東清分館」の水道代

を捻出するために、自主的にバザーをしてくれている。貧乏が人の尊厳を損なうのではなく、むしろその有能さを証明するチャンスを与えてくれている。「ゆりかもめ」の活動を見ていて、その様に思う。もはや「ゆりかもめ」の中核にいる父母達は、成金（高度成長直後の日本人）ではない。「出来ることをせず、出来ないことを望む」未熟さを脱して「なければならぬ何かをしてしまう」しっかりとした市民として成熟している。「ゆりかもめ」の積極的自立的な父母達の手と心の裡に日本の未来はがあると、私は思う。